

アジアの笑い話(4年)

本の世界を広げよう……爆笑ルームへいらっしゃい

●単元目標

- いろいろな読み物に興味をもち、すすんで読もうとすることができる。
- 笑い話のおもしろさを味わいながら読み、笑い与人間の関係について考えることができる。

●学習材について

ユーモアあふれるひと言、機知に富んだシャレが、教室をどっと盛り上げ、「笑い」に満ちたなごやかな雰囲気をつくるのがよくある。「笑い」はまさに、人間関係の潤滑油といえるであろう。視野が広がり、理解力も伸びてきて、すばやく反応が返ってくるようになるこの時期、ユーモアやウィットに富んだ「笑い」の楽しさも十分に味わわせていきたい。

トルコから中国までアジア大陸に広く伝わるアーファンティの存在は、日本ではほとんどといっていいほど知られていない。また、朝鮮半島に伝えられている数多くのユーモアあふれる笑い話も、日本の子供たちにとってあまりなじみ深いものではないように思える。本単元で扱った5つの笑い話をきっかけに、アジアや諸外国の笑い話の本を手取ることは、なるほど本の世界を広げることにつながっていくと考える。

本校には、中国帰国子女学級があり、中国の方を講師に迎えている。本校らしさを生かせるよい機会と考え、導入の段階で、中国よりの講師を教室に招き、アーファンティについて知っていることを説明してもらったり、実際に中国で読まれている絵本を持ってきて示してもらいながら、アーファンティの物語(教科書に載っているのとは別の話)を話してもらったりした。児童にとっては大変興味深く、アーファンティの存在が強く心に刻み込まれたようである。また、アーファンティの人物像を説明してもらっている時に、「日本の一休さんみたい」という声がすかさずあがり、学習を広げていくうえでの重要な発言となった。このように、学校や学級の実態により、外国からの児童や保護者に協力を願い、導入や発展の段階でその国の笑い話について紹介してもらうのも、有効な方法の一つといえるであろう。

ちなみに、アーファンティについての講師からの説明の中で、指導書に記載されていなかったものを紹介しておく。児童に話してあげると、より関心が深まるであろう。

(伝えられている内容が地域によって異なるのことがあるようである。講師はハルビンの出身である)

アーファンティはいつもろばに後ろ向きに乗っていて、ろばの足の向くままにのんびりのんびり進んでいく。知患者で、人のためになることや人の世話をよくする。悪を憎み、罰する。家族は妻とかわいい娘。やんちゃで賢い息子の4人。

【補足】本学習材には、落語『ぞろぞろ』も載せられている。たしかに落語は日本の笑い話の一分野ではあるが、話の内容のほかに、話し方・身ぶりなど別の要素も含まれるものであり、日本の文化の一つとも考えられるので、「アジアの笑い話」の中の一部分というよりも、別枠で単独に「落語」として扱っていきたいと考えた。よって、この学習指導案には含んでいない。

● 学習指導計画(全9時間)		
展開・時	学習活動	留意点
第一次・3	○ アーファンティの人物像やその物語のいくつかを知る。 ・ 中国人講師からアーファンティについて知っていることを話してもらう。 ・ 中国の絵本を見ながら、アーファンティ物語をいくつか聞く。 ○ 『アーファンティ物語』を読む。 ○ 『ホジャ物語』『引っこし』を読む。	○ 人物像や物語の内容のおもしろさをとらえながら聞かせる。 ・ 世界地図でトルコ・中国・新疆ウイグル地区などを見つけさえ、広く親しまれていることをとらえさせる。 ・ 知恵をはたらかせて困難を乗り越えたり悪をやっつけたりするおもしろさをとらえさせる。 ○ 物語の内容のおもしろさを考えながら読ませる。 ○ 物語の内容のおもしろさを考えながら読ませる。
第二次・6	○ 「笑い」をテーマに、取り組むことを決める。 ・ 『お笑いけいじ板を作ろう』を参考にして、集める・作る・演じるの3つの観点でできそうなことを考えて発表する。 ・ 自分が取り組みたいことを決める。 ○ 各自の取り組みを進める(3) ○ 友達の発表や実演を見聞きしたり、まとめたものを読んだりして、おもしろさを味わい、感想を交流する。(2)	○ 読書の範囲・学習活動の範囲を広げさせる。 ・ 参考図書をあらかじめ取り寄せて教室に置いておく。 ・ 学校図書館や地域の図書館の利用方法を確認する。 ○ 各自の活動に沿ったアドバイスをする。 ・ 必要があれば、まんが本、テレビ番組など、何でも参考にしてよい。 ・ 自分で考える、本でさがす、友達にきく、ビデオやカセットの活用など適切な方法を必要に応じて伝える。 ○ おもしろいところ、工夫しているところを中心に、相互評価させる。

● 本時の展開(本時4 / 9)

目標

- ・「笑い」をテーマに取り組みそうなことを発表することができる。
- ・自分が取り組みたいことを、達成の見通しをもって決めることができる。

本時の流れ

過程	学習活動	留意点
であう	1. 『お笑いけいじ板を作ろう』を読む。	○ どんなことができそうか考えながら読ませる。
まなぶ	2. 「笑い」をテーマに、取り組みそうなこと、やりたいことを考えて発表する。	○ 集める・作る・演じるの3つの観点から考えさせる。 ・事前に地域の図書館からアジアや日本の笑い話の本を取り寄せ、自由に手にとって読めるようにしておく。
	3. 学習活動を見通しをもってスムーズに進めるために、次の事柄について話し合う。 ・人数(個人・グループ) ・方法(集める・作る・演じる) ・まとめ方や表し方	○ 今までの経験をもとに考えさせる。 ・グループの人数は、だれもがかかわれることと活動のしやすさの点から考える。 ・国語科や他教科・総合で今まで取り組んだ調べ方やまとめ方を想起させる。 ・テレビ番組やまんがなどの例も思い起こさせる。
	4. 自分が取り組みたいことを決める。	○ やりたいことを決めたことにそれぞれが取り組めるように配慮する。 ・2で決めたすべての活動例に取り組まなくてよい。 ・集まってきた子たちの中でグループの人数を調整する。
いかす	5. 活動の計画を立てる。	○ 何をどんな方法で進め、どう表すか、考えを出し合って決めさせる。

本時の評価

- アジアの笑い話5話や『お笑いけいじ板を作ろう』を参考にして、「笑い」をテーマに取り組みそうなことを考え、すすんで発表しようとしているか。
- 方法や表し方も考えながら、自分が取り組みたいことを決めることができたか。

●授業の実際

子供たちは、アーファンティの存在がトルコで生まれてアジア大陸の西から東、アラビアへと広範囲にわたって伝えられていることに、まず驚かされたようだ。中国の絵本も興味深く手にとってページをめくっている子が多く見られた。

5つの笑い話の中では「分量が足りない」への反響がいちばん大きかった。よろず屋の不正を機転をきかせた返答でやりこめてしまう知恵がすごいというのがその理由であった。

本時(4 / 9)の学習活動2で出された児童の考えは次のようなものである。

<集める>

- ・笑い話の紹介(笑い話の本の紹介・よその国の笑い話の紹介)
- ・笑い話の主人公の紹介
- ・お笑い番組の紹介
- ・だじゃれを調べる

<作る>

- ・4こまんが(もともとある話を4こまんがにする・自分たちで考える)
- ・だじゃれを考える
- ・もともとある話を改造しておもしろくする
- ・主人公(アーファンティやホジャなど)をもとに笑い話を作る。

<演じる>

- ・笑い話を作って演じる
- ・漫才や漫談を演じる(調べて・作って)

また、学習活動3で話し合っ出されたこと、決めたことは次のとおりである。

- ・人数は、一人でやってもよいし、グループなら2～4人がやりやすい。
- ・方法としては、本で調べる・友達に聞く(アンケート)・親戚や知人(海外滞在・外国の人)に聞く・自分で考える・友達と相談しながら考える・本を参考にしながら考えるなどの考えが出された。
- ・まとめ方や表し方では、本にする・印刷して配る・模造紙に書いて掲示する・みんなの前で読んで紹介する・巻物にする・みんなの前で演じるなどの案が出された。

3つの話し合いをしているときに、「早くやりたい」という子供たちのつぶやきがたくさん聞かれた。

学習活動3でいろいろと話し合っおいたので、4と5はスムーズに取りかかることができた。子供たちが選んだ活動の中では、「4こまんがを作る」と「もともとある話を改造しておもしろくする」「だじゃれを調べる・作る」などが多かった。話の改造は、ある子供が以前遊びで桃太郎のお話の改造版を作ったところ好評だったことがあり、それが今回につながっていると思われる。このグループの子供たちは、改造版を作るものの話さがしに、図書室へ飛び出していった。また、笑い話の主人公や中国の笑い話を集めるグループは、数冊の本を広げて読んでいた。だじゃれを調べるグループは、とんち話の本などの中からさがしたりもしていたが、それよりも知っているものを持ち寄ったり、友達にたずねたりという活動が主であった。読書を広げるという意味では、だじゃれについての扱いにはもう少し配慮が必要かと思われる。